

京劇戯曲舞踊の足の表現に関する考察

お茶の水女子大学大学院 富 燦霞

【研究目的】

京劇戯曲舞踊の表現は身体を分割し各部位に多様な技法が創られ、技法を繋げるだけで人物が表現できる独特な方法を持っている。本研究は京劇戯曲舞踊の表現における身体各部位の役割や特徴を探ることを目的とする。これまで発表した頭部と手の表現の考察に続き、『中國舞譜』における中国舞踊の足の表現技法と、京劇の足の表現の分析とを照らし合わせ、京劇戯曲舞踊における足の表現の役割及び特徴を明らかにする。

【研究方法】

1. 『中國舞譜』に分類されている足の表現技法「足部動作」と「腿部動作」の特徴を文献より考察する。2. VTR フィルムから京劇各役柄に共通する足の表現の特徴を導き出す。3. 1. と2. の結果から京劇戯曲舞踊における足の表現の役割及び特徴を明らかにする。

【結果及び考察】

1. 『中國舞譜』に整理されている足の表現技法は足のステップやポジションを中心とする「足部動作」と、腿部の動きを中心とする「腿部動作」に分けられ、技法用語における中日の対照及び主な技法内容を表1にまとめた。

表1 『中國舞譜』—「足部」と「腿部」動作の技法

中国語（日本語）		技法数	主な内容
総計の技法	足部動作	計61	足のステップやポジション
	普通歩法（普通ステップ）	8	日常生活のステップ
	異常舞歩基本位置（基本ポジション）	9	舞踊ポジションや予備、静止時動作
	舞式歩法（舞踊ステップ）	44	舞踊のステップ
	腿部動作	計35	腿部の動きを中心の技法
	腿部彎曲	8	下肢基本訓練
その他	27	下肢の技法	

動作説明から次のように考察できる。①足の表現技法は、動きの若干の変化によって、性別と身分の異なる「人物像を描写する表現」と、動きによってその人物が何をしているかがわかる「状況を強調する表現」と、楽しいや苦しい等の「心情表現」との3つに分けられる。②「足部動作」において、「普通歩法」と「異常舞歩基本位置」には表現の特徴が見られない。「舞式歩法」44技法のうち、人物像を描写する表現は18技法、状況を強調する表現は8技法、心情表現は7技法を占めていることから、足のステップは主に人物像の描写を表現するが状況の強調、心情表現の役割も持っていることがわかる。③「腿部動作」において「腿部彎曲」8技法は下肢基本訓練であり、表現の特徴は見られない。他に武術を取り入れた表

現は20技法、威容のある人物の表現は3技法、舞踊の表現は4技法があり、全て人物像の描写を強調する表現である。腿部を中心とする動きは、人物像の描写における武術の表現に欠かせないことを示している。

2. 足の表現において、部位の動きと全体の動きの両側面から考察を行なった。部位の動きにおいて関連する身体部位を大腿、下腿、足部の3つに分け、全体の動きにおいては流れる動きとポーズの2つに分けてVTR フィルムを分析し、足の動きを記録した。足の表現の特徴を表2にまとめた。

表2 「足の表現の特徴」

部位の動き	男性役		女性役	
	大	下	大	下
	腿	腿	腿	腿
大	両足は一定の間隔に開き、外回転に保つ。両足を開いて股関節屈伸の角度が大きい。両足の開隔、外回転、股関節の屈伸は文役よりも武役が多様で派手である。	両足は一定の間隔に開き、外回転に保つ。文役よりも武役が股関節屈伸の角度が大きく、内外回転する動きが多様で派手である。	両足はほとんど開かず、平行やクロスする。回転は顕著ではないが、小刻みの内外交互回転する動きが見られる。股関節の大きな屈伸は多くないが、両足をクロスする時に股関節の大きな屈伸が見られる。	大腿部より動きが顕著だが、股関節をつけるやクロスする動きが多い。文役よりも武役のほうが大きく難し、派手な動きが多い。
下	両足の運びは踵から着地することが基本である。両足は一定の間隔に開き、外旋になっている。武役は様々な角度の足関節の屈伸、足部を高位置にあげることがみられる。	両足の運びは細かく、平行やクロスすることが多く、踵から着地することが基本である。足関節の屈伸の角度は男性の武役ほど多様ではないが、文役は緩やかな動きが多く、武役は素早い動きが多い。	両足の運びは細かく、平行やクロスすることが多く、踵から着地することが基本である。足関節の屈伸の角度は男性の武役ほど多様ではないが、文役は緩やかな動きが多く、武役は素早い動きが多い。	両足の運びは細かく、平行やクロスすることが多く、踵から着地することが基本である。足関節の屈伸の角度は男性の武役ほど多様ではないが、文役は緩やかな動きが多く、武役は素早い動きが多い。
足	両足の運びは踵から着地することが基本である。両足は一定の間隔に開き、外旋になっている。武役は様々な角度の足関節の屈伸、足部を高位置にあげることがみられる。	両足の運びは細かく、平行やクロスすることが多く、踵から着地することが基本である。足関節の屈伸の角度は男性の武役ほど多様ではないが、文役は緩やかな動きが多く、武役は素早い動きが多い。	両足の運びは細かく、平行やクロスすることが多く、踵から着地することが基本である。足関節の屈伸の角度は男性の武役ほど多様ではないが、文役は緩やかな動きが多く、武役は素早い動きが多い。	両足の運びは細かく、平行やクロスすることが多く、踵から着地することが基本である。足関節の屈伸の角度は男性の武役ほど多様ではないが、文役は緩やかな動きが多く、武役は素早い動きが多い。
全体の動き	文役		武役	
	流れる動き	舞踊の段に技法の繋ぎが見られる。歌やセリフを中心とする演技時に、動きの流れが断続的になる。緩やかに温かな動きが多い。	技法の繋ぎが顕著に見られる。男性役は大腿部可動範囲極限の動きで曲芸的技巧を示す。女性役は両大腿部の大きな開きを強調せず、控えめであるが、股関節以下の動きが素早く多様である。	舞踊の段に技法の繋ぎが見られる。歌やセリフを中心とする演技時に、動きの流れが断続的になる。緩やかに温かな動きが多い。
ポーズ	男女、身分を区別し、両足をつけるかやや開く。男性役は「丁字歩」、女性役は「側踏歩」が主なポーズとなっている。	男女、身分を区別し、文役の男・女役の主なポーズと共通しているが、さらに多様なポーズがみられる。	男女、身分を区別し、両足をつけるかやや開く。男性役は「丁字歩」、女性役は「側踏歩」が主なポーズとなっている。	男女、身分を区別し、文役の男・女役の主なポーズと共通しているが、さらに多様なポーズがみられる。

男女別、文武役の足の表現ははっきりと決められている。歩くや走る表現が基本となっており、経路が円や曲線を描くことや、特定の表現によって具体的行動を表示することが共通の特徴である。従って、足の表現は人物像を強調する役割をもっている一方、具体的行動を表示していることが明らかである。また他の部位が走ることや激しく動く足の表現に影響されないように、身体の重心をやや低くし異なった表現をするところに、身体を分割する表現が他部位よりも顕著に表われている。3. 以上の結果から京劇戯曲舞踊における足の表現の役割及び特徴は、次の2点があげられる。(1) 足の表現は、役柄の性別や身分を区別し、人物像の描写を強調し、具体的行動を表示することや状況の強調を表現する役割も持っている。(2) 足の表現によって、身体を分割し表現している特徴を他部位の表現よりさらに強調する。

各部位は各々異なった明確な役割もっているゆえ、部位別の技法を繋げた表現方法が成り立つのであると考える。今後は引き続き腰胸表現を考察し、京劇戯曲舞踊の表現＝部位の技法を繋げる表現とその関係を明らかにすることを次の課題にしたい。